

# 令和元年度 親子ふれあい農業体験学習 稲刈り体験 9月21日(土)8時30分

## 田植えから今日までの作業

### ①7月、8月頃 草刈り、水草取り、水入れ

田植え後は、あぜなどの草がどんどん成長していきますので、草刈り作業などをします。

なぜ、草刈りをする必要があるの？それは害虫などが発生し、稲に移る場合があるからです。稲が大きくなってきたら、水を1回ぬきます。たんぼを干すことによって、根のはりを強くします(土用干しともいいます)。そうすることで稲はどんどん立派に育っていきます。



白いお花を  
咲かせます。

この間にも、稲が病気にならないよう薬剤を散布し、カメムシなどの稲を狙う害虫から守ります。また、稲もほかの植物と同じように花を咲かせます。ですがその時間はなんとわずか2時間ほどしかありません。

# 今日の作業（稲刈り・はさがけ）

① 9月21日 稲刈り・はさがけ

## ☆本日のタイムスケジュール☆

8:30~8:45	参加者準備
8:45~9:15	指導員紹介、作業説明
9:15~11:30	刈り取り作業・はさがけ作業
終了後～	片づけ

さあ、今日は稲刈り作業です。

気をつけよう！

- あついで、こまめに水分をとろうね。
- 走り回ったり、けがをしないようにしようね。  
くつしたは必ず、はくようにしてね。
- 他の人の田んぼには入らないでね。
- あぜなどの草で足をつかないために、長靴などをはいてね。
- トイレには余裕を持って行くようにしようね。
- かまは振り回さないでね。
- 稲の葉で目をつかないようにしてくださいね。

かまを持って田んぼに入ろう。前の人を押さないでね。2～3本しか植えてなかった苗がたくさんになっているね。



稲刈りの時、かまで手や足を切らないように注意してください。左手で稲の下から20センチくらいの位置を持ち、右手にかまを持ち、土から2・3センチくらい上のところを刈ります。この時、土を切らないようにしてください（土を切ると、株に土がつき脱穀した籾に砂や石が入ります）。刈るコツは、のこぎりで木を切るように（ごしごと）刈ります。



3株から 5株刈り、株をそろえてクロスしておきます。株をそろえるのは、次の作業をしやすくすること、脱穀の位置を一定にし、収量を多くするためです。刈った株は、踏まないようにしましょう。大切なもち米です、踏んでしまうと籾が土で汚れたり、取れてしまいます。



ひもでくる前の状態です。この時点で4対6に株数を分けるように置きます。このようにしておくと、はさがけ(だてがけ)の時くった束を簡単に割ることができます。



ひもできつく、くくります。ゆるくくると、かけるときにバラけたり、乾燥中に落下します。





はさがけする<sup>とき</sup>は、くくった<sup>たば</sup>束を、4対<sup>たい</sup>6くらいに割ります。



いなほ<sup>いなほ</sup>を<sup>した</sup>下に<sup>して</sup>かけます。

さぎょう  
② これからの作業

稲刈りの後の稲は、はさがけ(だてがけ)して2週間ほど天日干しにします。しっかりと乾かしておいしいもち米にします！しっかり乾燥できたら、脱穀(稲扱きともいいます)をします。簡単にいうと、はさがけにしている刈り取った稲の束を籾とワラに分ける作業です。ワラはお正月のしめ縄作りに使うので大切にとっておきます。臼ひきでは、籾すりを行い、「玄米」と「籾殻」に分けます。このあと、玄米を精米(胚や種皮をとる作業)すると白米になります。もち米はこの後、蒸してから臼と杵でもちつきをすれば、おいしいおもちができます。もちつきが楽しみです☆

じかい  
次回は12月8日(日)生駒ふるさとミュージアムで「発表会」と「餅つき大会」を行います。みんなで作ったもち米のプレゼントもあります！必ず参加してくださいね♪